

優翔館通信

第6号

3月27日
(木)

編集責任者
安部 英明

記事(職員)
藤井 友樹



平成26年3月3日(月)、サービス付き高齢者向け住宅優翔館併設の「優翔館デイサービスセンター」にて、ひな祭り&たこ焼きパーティーイベントが開催されました。

皆様にも少しでも日本の文化、季節を感じていただくため「ひな祭り」イベントを行いました。

ひな祭りと言えば、「ひな人形」皆様は、御内裏様、お雛様に扮していただき、即席ひな人形の2段飾りで、記念撮影をいたしました。皆さまとても良くお似合いになってました。



ひな祭りイベントでの集合写真



とてもきれいな仕上がり

ひな祭りイベントのあとは、「たこ焼き」パーティーです。本来であれば白酒に菱餅ですが、皆様で楽しく作りながらアツアツの出来立てが食べられる「たこ焼き」は大好評でした。皆様、初めてとは思えないほどの見事な手捌きで「たこ焼き」を丸く焼いていました。出来立てホヤホヤのたこ焼きは外はサククリ、中身はトロリ、見た目も中身も申し分ない出来栄でした。出来立てアツアツを頬張りながら「美味いね。」と皆様、完食されてました。

今回も利用者様・職員が協力し合って、大盛況のひな祭りイベント&たこ焼きパーティーとなりました。ありがとうございました！

東洋水産工場へ潜入捜査！



写真左…見学風景

平成26年3月24日 優翔館デイサービスセンター、外出イベントにて(株)東洋水産の商品生産工場へ行って来ました。



写真左…お土産頂きました！



マルちゃんでおなじみの東洋水産の工場見学に行ってきました。

マルちゃんといえば焼きそば弁当や赤いきつねなどのインスタント食品で有名ですね。またかわい可笑顔の「マルちゃん」マークもすぐに浮かばれる方も多いと思います。その「マルちゃん食品」の製造工場が、石狩市にあるという情報を聞きつけ、優翔館デイサービスセンターの利用者様と共に、潜入捜査して来ました！

工場に入った途端、あのカップ麺を開封した時の何とも言えない麺のよい香りが漂ってました。初めは、東洋水産の歴史やマルちゃん誕生秘話(編集後記参照)などを紹介したVTRを視聴しました。その後、現在、店頭に並んでいる商品の数々や海外で売られているもの、これから発売されるものを見たり、過去から現在までの移り変わりが分かるCMを見たり、即席麺が完成するまでの工程を見学しました。ライン工場は、最新のロボットで自動化され、皆様「すごい！すごい！」と驚嘆されてました。

見学の終わりには、当日作り立ての焼きそば弁当のプレゼント！ちなみに出来立てでも味はいつもの変わらぬ美味しさでした(笑)「協力頂きました東洋水産の皆様ありがとうございました。」



東洋水産、商品展示ブース

編集後記

日頃より「優翔館」を「愛顧賜りまして誠にありがとうございました。」とさせていただきます。

今回もイベントに因んで東洋水産「マルちゃん」の誕生についてご紹介致します。

東洋水産は、水産物の仕入れ加工販売からスタートし、魚肉ハムソーセージや缶詰などの加工食品へ進出しました。

その後、即席麺市場への本格参入にあたり、お子様からお年寄りまで幅広いお客様に親しまれ、愛されるブランド開発が必要になりました。そこで1961年に誕生したのが「マルちゃん」マークです。

「マルちゃん」の笑顔には、お客様に、美味しさや楽しさ、幸せをお届けしたいという願いが込められています。では、どうしてマルちゃんになったのでしょうか？

当時、水産会社の多くは、正式社名ではなく、魚市場内で使っていた呼び名の屋号を社章として使用していました。東洋水産も丸の中に社名の頭文字「と」を組み合わせた「マルト」マークを使っていました。新しいブランドの開発では「マルト」をベースにした連想から「マルトちゃん」「マルちゃん」となり、その名前にふさわしいまん丸、ハッピースマイルのマークが生まれました。現在使用されているマルちゃんマークは、「3代目」だそうです。



初代のマルちゃん